



岡山市区づくり推進事業助成申込書

(地域活動部門)

令和7年1月14日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ キョクリュウガックササエアイスイシンキ

ヨウギカイ

団体名 旭竜学区支え合い推進協議会

所在地

連絡先

フリガナ

代表者氏名

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ☒ ア 地域課題解決 イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり エ 地域課題解決型の地域組織づくり オ その他
事業名称	旭竜助け合い隊推進事業
事業実施区域(小学校区)	旭竜小学校区
事業実施回数	新規 ☒ 継続 5回目 (令和3年度から)
課題	【地域の实情】 当学区には高島団地という大きな市営住宅団地(790世帯)があり、そこには高齢で独り暮らしの人が多く、日常生活のちょっとしたことで困っている人が多い。 当学区は高齢化率が高く(39%)、高島団地以外でも、学区内には日常生活で困っている人がいる。 【解決を図りたい課題】 病院付き添い、美容院付き添い、買い物、ごみ出し、草取り、家事手伝い、庭の片付け、庭木の剪定、電球の取り替えなどで困っている人をサポートしたい。 【事業の必要性】 上記課題は介護保険サービスの適用にならないものが多く、介護保険制度を補完するものとして、地域でサポートする必要がある。 当事業は、令和2年9月にスタートし、4年半ほど経った現在、利用者も非常に多く、高齢者から喜ばれ、意義のある事業となっている。
事業の目的	(1) 高齢者にやさしいまちづくり (2) 高齢者の困りごとの解消 (3) 介護保険制度の補完 (4) 「いつまでも住み続けたいと思う」まちづくり (5) ボランティア精神の涵養 (6) ボランティア活動による生きがいの発見と認知症の予防

	(7) 独り暮らしの高齢者の安否確認
事業の内容	(1) 病院付き添い (2) 美容院付き添い (3) 買い物代行 (4) ごみ出し (5) 草取り (6) 家事手伝い (7) 庭の片付け、庭木の剪定 (8) 電球の取り替え (9) パソコン操作サポート (10) 介護相談 ○ 支援を希望する場合、助け合い隊のコーディネーターへ電話をし、電話を受けたコーディネーター（4名、1週間で交代）が、登録したサポーター（25名）に電話をし、日程調整をしたうえで、要支援者をサポートしている。
期待される成果・目標	【要支援者から見た場合】 (1) 高齢者の困りごとの解消 (2) 介護保険制度の補完 (3) 独り暮らしの高齢者の安否確認 【サポーターから見た場合】 (1) ボランティア精神の涵養 (2) ボランティア活動による生きがいの発見と認知症の予防 (3) 活動することによる健康の保持
企画などの工夫	(1) 活動内容を積極的に広報している。 年に1回ないし2回、広報紙を発行している。 本年3月にも発行する予定である。 (2) 他学区から、制度説明の依頼があれば、積極的に説明に行っている。 (3) 市の福祉を内容として会議に積極的に参加し、活動実態を発表している。
協働する団体等	(1) 旭竜地区社会福祉協議会 困難なケースの相談 (2) 旭竜地区民生委員児童委員協議会 困難なケースの相談 (3) 社会福祉法人岡山市社会福祉協議会中区事務所 研修会における講師派遣の相談、問題点の相談、他団体の活動の紹介 (4) 公益財団法人岡山市ふれあい公社岡山市中区地域包括支援センター高島分室 困難なケースの相談、介護保険制度を利用できるかどうかの相談 体調に問題があり放置できない場合の相談、研修会講師の派遣 (5) 社会福祉法人昭友会 困難なケースの相談、介護保険制度を利用できるかどうかの相談

事業の 情報公開	(1) 広報紙の発行（年1回） (2) 高島公民館だよりへの掲載 (3) 他学区への積極的なPR (4) 福祉関係会議への積極的な参加と発表
学区 地区 区への 広がり	(1) 令和5年11月、広報紙発行 (2) 令和6年 3月、広報紙発行 (3) 令和7年 3月、広報紙発行予定 (4) 制服（ベスト・ウィンドブレーカー）の着用によるPR
前年度 からの 見直し 拡充点	(1) 現在、コーディネーターは4名である。 できれば、もう2名増やしたいが、何を依頼されるか、分からないという不安があり、なかなか増えない。できれば、女性のコーディネーターを増やしたい。 (2) 現在、サポーターは25名である。できれば、30名にしたい。 高齢、体調不良、転居の理由で辞めていく人もあり、なかなか増えない。
次年度 以降の 予定	① 次年度以後の活動計画 旭竜助け合い隊事業を継続する。 ② 資金の確保について ☒ 次年度も区づくり推進事業を申請する予定
その他 PRしたい 点	(1) 「いつまでも住み続けたいと思う」まちづくりの一環であること。 (2) 「福祉の町・旭竜」を一層充実させるものであること。 (3) サポーターは、65歳以上の人が多く、高齢者の生きがいになり、認知症の予防になること。

事業スケジュール

月 日	活 動 内 容
4 月	助け合い隊サポート事業
5 月	助け合い隊サポート事業 助け合い隊会議 支え合い推進協議会
6 月	助け合い隊サポート事業
7 月	助け合い隊サポート事業
8 月	助け合い隊サポート事業
9 月	助け合い隊サポート事業
10 月	助け合い隊サポート事業 広報紙発行
11 月	助け合い隊サポート事業 支え合い推進協議会 助け合い隊会議＋研修会
12 月	助け合い隊サポート事業
1 月	助け合い隊サポート事業
2 月	助け合い隊サポート事業
3 月	助け合い隊サポート事業 支え合い推進協議会 広報紙発行

令和7年度・収支予算書

◆ 収 入

単位:円

項 目	前年度決算前 年度見込み額	予 算 額	内 容
岡山市補助金	69, 000	67, 000	(100 円未満の端数切捨て)
実施団体負担金	60, 000	0	
地区社会福祉協議会補助金	13, 500	67, 000	旭竜地区社会福祉協議会補助金
協賛金	0	0	
雑収入	5, 000	0	講師料
計	147, 500	134, 000	

◆ 支 出

単位:円

項 目	前年度決算 見込み額	予 算 額	内 容
① 消耗品費	30, 000	30, 000	プリンターインク(6,000 円)、PC 用紙(2,000 円) 宛名シール(2,000 円)、その他の事務用品費 (20,000 円)
② 食糧費	5, 000	5, 000	会議用お茶代(5,000 円)、
③ 印刷製本費	34, 000	20, 000	広報紙(17,000 円×1 回=17,000 円)、コピー 代(3,000 円)
④ 通信運搬費	41, 000	41, 000	携帯電話通話料金(3,300 円×12 か月=39,6 00 円)、切手代(1,400 円)
⑤ 保険料	36, 000	36, 000	ボランティア保険(18 円×2,000 人=36,000 円)
⑥ 手数料	1, 500	2, 000	振込手数料(2,000 円)
計	147, 500	134, 000	

◆概算交付の要否(いずれかに○をしてください)。

補助金(3/4)の概算払いを	☒ 希望する	・	☐ 希望しない
----------------	---------------------------------------	---	-----------------------------

※「希望する」場合は、その理由を具体的にお書きください

令和7年度上半期の事業運営費が不足するため。

- 内容欄へは使用用途等を記入してください。
- 記入欄が不足する場合は、欄を追加してください。